



平成 28 年 7 月 29 日

各 位

上場会社名 株式会社 遠藤照明
 代表者 代表取締役社長 遠藤 邦彦
 (コード番号 6932)
 問合せ先責任者 取締役上席執行役員
 管理本部長兼経理部長 中村 嘉宏
 (TEL 06-6267-7095)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 28 年 4 月 28 日に公表した業績予想を下記の通り修正しましたので お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 29 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 20,400	百万円 700	百万円 500	百万円 400	円 銭 27.07
今回修正予想(B)	18,500	300	△1,000	△1,450	△98.13
増減額(B-A)	△1,900	△400	△1,500	△1,850	
増減率(%)	△9.3	△57.1	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	21,014	141	323	△455	△30.83

平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 44,200	百万円 2,300	百万円 1,900	百万円 1,400	円 銭 94.75
今回修正予想(B)	41,000	2,100	200	200	13.54
増減額(B-A)	△3,200	△200	△1,700	△1,200	
増減率(%)	△7.2	△8.7	△89.5	△85.7	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	44,000	627	526	△3,534	△239.21

平成 29 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 13,400	百万円 20	百万円 10	円 銭 0.68
今回修正予想(B)	12,100	△1,200	△1,300	△87.98
増減額(B-A)	△1,300	△1,220	△1,310	
増減率(%)	△9.7	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	14,783	178	136	9.26

平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 28,200	百万円 400	百万円 300	円 銭 20.30
今回修正予想(B)	26,900	△1,000	△450	△30.45
増減額(B-A)	△1,300	△1,400	△750	
増減率(%)	△4.6	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	29,301	△295	△2,733	△185.02

2. 連結業績予想修正の理由

平成 29 年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想につきましては、当社製品の主要顧客の設備投資意欲に盛り上がりが見えなかったこと、円高の急伸により海外市場における売上の円換算額が目減りすることにより、売上高が前回公表予想値に対して減少する見込みとなりました。営業利益につきましては、原価低減活動の推進、円高による輸入品購買価格の削減効果の取込(影響額1億 81 百万円)、経費削減に努めましたが、減収による売上総利益の減少(影響額△5億 96 百万円)、円高により海外子会社の利益の円換算額が目減り(影響額△60 百万円)することにより、前回公表予想値に対して減少する見込みです。経常利益につきましては、急速な円高の進行により、為替リスクのヘッジのために取り組んでおります為替予約の実行時に為替差損が発生(影響額△8億 96 百万円)することにより、前回公表予想値に対して減少する見込みとなりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、長期の為替リスクを回避するために取り組んでおりますデリバティブ取引に関して評価損が発生(影響額△3億 55 百万円)することにより、前回公表予想値に対して減少する見込みとなりました。

平成 29 年3月期通期の連結業績予想につきましては、下期の経済動向及びその当社業績に与える影響が不透明であるため、上記の上期業績見込みの修正結果に加えて、期初より大幅な円高水準で為替レートが推移していることの影響額のみを下期業績予想に反映しました。

3. 個別業績予想修正の理由

平成 29 年3月期第2四半期累計期間の個別業績予想につきましては、売上高が、当社製品の主要顧客の設備投資意欲に盛り上がりが見えなかったことにより、前回公表予想値に対して減少する見込みとなりました。経常利益につきましては、減収による売上総利益の減少(影響額△5億 21 百万円)、急速な円高の進行により、為替リスクのヘッジのために取り組んでおります為替予約の実行時に為替差損が発生(影響額△8億 96 百万円)することにより、前回公表予想値に対して減少する見込みとなりました。四半期純利益につきましては、長期の為替リスクを回避するために取り組んでおりますデリバティブ取引に関して評価損が発生(影響額 69 百万円)することにより、前回公表予想値に対して減少する見込みとなりました。

平成 29 年3月期通期の個別業績予想につきましては、下期の経済動向及びその当社業績に与える影響が不透明であるため、上記の上期業績見込みの修正結果に加えて、期初より大幅な円高水準で為替レートが推移していることの影響額のみを下期業績予想に反映しました。

(注)上記の業績予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は 今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上